

(R04 樣式 1)

令和 4 年 4 月 14 日

(※受付番号)

教 育 長 様

代表者	校園名 :	大阪市立鯰江小学校
	校園長名 :	森元 貴子
	電話 :	06-6939-0023
	事務職員名 :	長松 楓果
申請者	校園名 :	大阪市立鯰江小学校
	職名・名前 :	教諭・松井 美衣
	電話 :	06-6939-0023

令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究（2年目）	
2	研究テーマ	ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化 一探究活動における「自立した学習者」の育成を目指して—				
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 生活科・総合的な学習の時間における「探究課題」の設定と主体的な学びの実現 <input type="radio"/> 生活・総合を核としたカリキュラム・マネジメントと系統的な年間指導計画の作成 <input type="radio"/> ICTを活用した「学習の個性化」による自主的・自発的な学習の促進 <input type="radio"/> ロイロノート導入によるデジタル上での思考ツールの効果的な活用 <input type="radio"/> 児童同士の合意形成を目的とした協働的な学びのあり方 <input type="radio"/> 校内組織改革による授業改善の提案 <input type="radio"/> 全教員による研究授業の実施（目標管理シートの活用） <input type="radio"/> 授業改善を軸とした研修会の実施（毎週水曜日開催） 				
		継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。				

<p>昨年度の研究では、令和3年中央教育審議会答申における「令和の日本型学校教育の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」を踏まえ、新学習指導要領に基づいた児童の資質・能力の育成に向けて、ICT環境を最大限活用し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを行ってきた。今年度も研究テーマは踏襲するものの、研究教科を生活・総合にしぼり、児童を「自立した学習者」として育成することを研究の目的とする。昨年度の目標であった「主体的・対話的で深い学び」については、各教科で教員一人一人が自らの授業実践を通して実現していくこととする。生活・総合ではそういった各教科で身に付けた知識・技能を活用し、探究活動における課題解決に向けて、自ら学びを進めていくことのできる力の育成を目指す。</p>	
4	研究内容

(1) 児童の課題意識を高める探究活動のあり方
 ①探究サイクルを意識した年間計画と探究課題の設定
 ②探究ペタを活用した単元構成の見直し
 ③子供の変容を軸とした評価のあり方

(2) ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」
 ①一人一台端末を活用した個別の学び（情報の収集）
 ②ロイロノートを活用した協働的な学び（児童同士の合意形成）
 ③ICTを活用したデジタルポートフォリオ

(3) 探究を核としたカリキュラム・マネジメント
 ①各学年の教科領域との関連を踏まえた探究課題の設定
 ②目指す子供の姿と資質・能力を明確にした単元構成
 ③生活・総合と各教科・領域とのつながりを明示した単元配列表の作成

研究コース A グループ研究A 代表校校園コード 691542
 代表校園 大阪市立鯨江小学校 校園長名 森元 貴子

日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。	
5	<p>4月 ・昨年度の研究の振り返り、今年度研究テーマ・目的・内容・方法の検討 ・各学年の探究課題の決定</p> <p>5月 ・研究の視点（討議会の柱）の検討 教員・児童へのアンケート実施 ・教職員研修①「探究サイクルと探究ペタの活用」【鳴門教育大学 泰山裕先生】</p> <p>6月 ・公開授業の授業者・テーマの検討・決定 ・校内授業研究会①・研究討議会実施（学年未定） ・6月5日「求められる教師力と授業研究」【國學院大學 田村学先生】</p> <p>7月 ・1学期のまとめと研究総論の作成と検討 ・教職員研修②「探究とカリキュラムマネジメント」【鳴門教育大学泰山裕先生】 ・7月16日「教師に求められるイメージ力と単元構成」【國學院大學田村学先生】</p> <p>8月 ・第1回公開授業の指導案検討・討議会テーマの決定 ・8月13日「教師に求められるイメージ力と学習過程」【國學院大學田村学先生】</p> <p>9月 ・第1回公開授業（5時間目授業、終了後全体会と講演の予定） ※1回目テーマ「ICTを活用した個別最適な学び」状況によってオンラインで配信 ・公開授業の成果と課題について検討、次回に向けての改善点の整理 ・9月17日「見取る力と学習評価」【國學院大學 田村学先生】 ・教職員研修③「ICT活用の可能性」【園田女子大学 堀田博史先生】</p> <p>10月 ・第2回公開授業の指導案検討・討議会テーマの決定 ・校内授業研究会②・研究討議会実施 ・教職員研修④「認知プロセスと思考ツールの活用」【鳴門教育大学泰山裕先生】</p> <p>11月 ・第2回公開授業（5時間目授業、終了後全体会と講演の予定） ※2回目テーマ「ICTを活用した協働的な学び」状況によってはオンラインで配信 ・公開授業の成果と課題について検討、次回に向けての改善点の整理 ・教職員研修「デジタルポートフォリオと評価」【鳴門教育大学 泰山裕先生】</p> <p>12月 ・校内授業研究会③・研究討議会実施 ・これまでの研究授業の総括（成果と課題について）</p> <p>1月 ・研究発表会指導案検討、研究の概要プレゼン作成</p> <p>2月 ・研究発表会 （総合研究発表会「生活・総合部」の授業として実施する可能性もあり） 「個別最適な学びと協働的な学びの一体化—探究活動における自立した学習者—」 研究のまとめの冊子配布 指導案集配布 ・教員、児童へのアンケート実施（事前アンケートとの比較と分析） ・今年度研究のまとめと来年度に向けての課題を整理</p>

6	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 一人一台端末を中心としたICT機器を活用し、「学習の個性化」による自主的・自発的な学習の促進することによって、児童一人一人に主体的に学習に向かう態度を育成することができる。</p> <p>『検証方法』 令和4年度の大阪市学力経年調査において「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」という項目に対し肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果2】 ロイロノートを導入し、デジタル上で児童同士の合意形成を目的とした意見交流を活発にすることで、他者と考えを練り合わせることによって自らの考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>『検証方法』 令和4年度の大阪市学力経年調査において「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか」という項目に対し肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 総合的な学習の時間を中心に、一人一台端末を積極的に活用して情報を収集したり、集めた情報を整理・分析したりする活動を繰り返すことで、課題の解決に向けて、自ら学びをすすめていくことができるようになる。</p> <p>『検証方法』 令和4年度大阪市学力経年調査や校内アンケートにおいて「学習時に一人一台端末を活用することができたか」という項目に対し肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。</p>
---	---

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 校内の組織改革を行い、授業改善の視点を明確に提示するとともに、目標管理シートを活用することで、全教員が自らの目標をもって授業改善にあたることができる。</p> <p>『検証方法』 人事考課における目標管理シートの授業力の項目において、全教員が「3」以上の自己評価をつける。</p> <p>【見込まれる成果5】 公開授業研究会において、実際の授業場面におけるICTの効果的な活用の仕方を提案することで、大阪市の一人一台端末の活用を促進することができる。</p> <p>『検証方法』 公開授業研究会の参会者アンケートにおいて、ICTの活用場面について肯定的にとらえる割合を70%以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="409 804 1060 871"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 1 月 27 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立鯰江小学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>研究のまとめとして大阪市の小学校や研究発表会の参会者に配布</p>	日程	令和 5 年 1 月 27 日	場所	大阪市立鯰江小学校
日程	令和 5 年 1 月 27 日	場所	大阪市立鯰江小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>令和3年の中教審において、令和の日本型教育として「個別最適な学び」と「協働的な学び」が提唱されたところであるが、まだまだ実際の授業場面においての一体化や、それぞれの学びを促進するための有効な手立てについては検証されていないのが現状である。</p> <p>また、一人一台端末が導入され、様々な場面で児童が活用してはいるものの、それが各教科等の本質に迫る目標達成にどう有効であるのかについては、検証を進めていく過渡期にあると思われる。</p> <p>そんな中、これから目指すべき「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化によって、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善が行われ、子供たちに身に付けるべき資質・能力が育成されるという道筋において、ICTがどのように有効に働くのかを検証していくことは、これからGIGAスクール構想の実現に向けて、必ず必要となってくるであろう。</p> <p>新しい教育に向けての過渡期である現在、本研究において、授業実践を柱として検証を進めていくことは、次世代に求められる力をどのように育成していくべきかの足掛かりとなると確信している。ぜひ、選出していただきたい。</p>				